



「第13回 全国高校生歴史フォーラム」の報告です。

日 時： 令和元年10月11日(金) 奈良大学ウェブサイトで発表
<http://www.nara-u.ac.jp/forum/result/index.html>

主 催： 奈良大学 奈良県

受賞作： 撫順東方における歴史観光構想とその挫折
～まぼろしに終わった歴史ツーリズムを読み解く～

参加者： 江崎晃定 梅田拓海 片桐昂大 辻 龍成 岡本優奈 土田真菜
石原伶緒 吉川奎騎 (地域研究部)

◇ 歴史フォーラムへの参加と地域研究部の活動

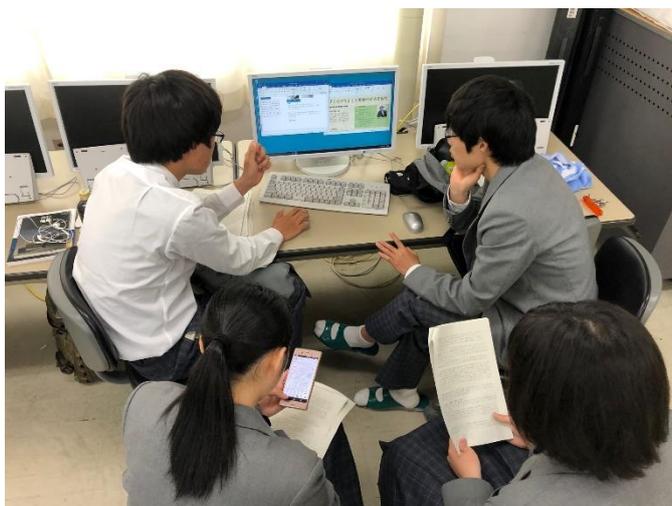
全国高校生歴史フォーラムは、歴史、地理、史跡、文化財、文学、人物などに関わる探究活動の成果をレポートにまとめ競うコンテストです。

昨年度、関高校地域研究部は、岐阜県出身の歴史家、渡辺三三の研究活動やその近代史的意義を考察した成果をレポートにまとめ、コンテストに応募しました(「渡辺三三の撫順史研究 植民地支配と歴史学」)。結果、応募総数 73 作品のうちの優秀賞(上位 5 作品)に選ばれ、奈良大学で行われたプレゼン大会では、学術性の高さが評価され、奈良大学学長賞を受賞しました。

今年度は昨年度に引き続き、渡辺三三に関わる研究を継続し、コンテストに応募しました(「撫順東方における歴史観光構想とその挫折 まぼろしに終わった歴史ツーリズムを読み解く」)。結果は応募総数143編のうち上位12位以内、佳作を受賞することになりました。

第一執筆者の江崎晃定さんは「二か年にわたる一連の研究により、学者の調査の背景には、軍の作戦や観光開発計画、さらに朝鮮・旧満州を縦断する鉄道敷設計画があったことが明らかになった。ジャーナリズムや研究者と植民地統治との関わりを、新聞記事をはじめとする当時の史料で浮き彫りにすることができたと思う。大学進学後は研究をさらに発展させたい」と抱負を語っています。

なお、この研究に関しては、梅田拓海さんと辻龍成さんが、さが総文祭郷土研究部門でも「文化財保全と観光開発」という観点からの発表を行っています。



写真上(渡辺家保管の新聞スクラップ)、写真下(発表資料作成の様子)